《社会事象〔６〕》　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和3年９月14日

東京オリンピック・パラリンピック

《はじめに》

◆　東京オリンピック・パラリンピックが終わりました。今までのオリンピックにそれ程の強い関心があった訳でもなく，個別の競技や個別の選手・チームが活躍する姿には賞賛の気持ちになったり，気持ちが昂ったりもしてきていますが，今回の東京オリンピックについては，実に様々な案件・できごとで暗澹たる気持ちになったり残念な気持ちになったりしてきたように思います。今回の東京オリンピック・パラリンピックについての個人的な印象をメモ的に文字にしてみておこうと思います。

《招致から開催へ》

【関連事案年表】

2008(H20)年＊2016年大会の東京への招致ならず

2013(H25)年＊2020年大会の東京への招致決定

　　　　　　　　　　＊猪瀬知事：コンパクトな復興五輪

　　　　　　　　　　＊スタジアムのデザイン決定

　　　　　　　　　　＊安倍首相：アンダーコントロール演説

2015(H27)年＊スタジアムのデザイン変更（経費問題）

　　　　　　　　　　＊エンブレム盗用問題で変更

2016(H28)年＊東京五輪贈収賄疑惑

　　　　　　　　　　＊小池都知事候補経費見直し提起

2019(H31)年＊贈収賄疑惑再燃

　　　　　　　　　　＊マラソン・競歩会場変更（酷暑議論）

2020(R2)年＊コロナ禍で1年延期決定

2021(R3)年＊森会長が評議員会で女性蔑視発言辞任

　　　　　　　　　＊開閉会式の演出統括が女性タレントを

　　　　　　　　　　　豚に例える演出案で辞任

　　　　　　　　　＊コロナ禍で海外観客受入れ中止

　　　　　　　　　＊コロナ禍で1都3県無観客決定

　　　　　　　　　＊開会式直前に楽曲担当・演出担当辞任

　　　　　　　　　＊緊急事態宣言下で開会・閉会

◆　都市が開催の立候補をする仕組みであること

から，誰が発案者かは分かりにくいものの，ネット記

事などで動きを見てみると，1999年の石原都知

事による立候補宣言を受けて2006年に都議会

での2016大会への立候補決定となっているようで，

この時には福岡市も名乗りを上げているようです。そ

れ以前でも，1988年大会に名古屋，2008年

大会に大阪市が立候補しているとのことです。

◆　2016大会はリオデジャネイロとなり，東京開

催とはなりませんでしたが，2020年大会には広島

・長崎市が共同開催を表明したが盛り上がらず，

石原都知事が再立候補を表明しています。

◆　石原都知事の辞職を受けて誕生した猪瀬都

知事は「コンパクトな復興五輪とする」と述べていた

ようですが，政治家の言の常なのか，実務家の思

惑なのか，結果的には「コンパクトな」も「復興五輪」

もほとんど実現されなかったという印象です。

《大いなる虚偽》

◆　招致決定の段階から，既に部分的な報道の中にはあったような印象がありますが，マスコミを含めて当時は大きな焦点までにはならなかったのが，私見で言えば《大いなる虚偽》としか言いようのない次の二つのことです。一つは，「立候補ファイル」にある次の文言（部分抄）です。

東京での2020年オリンピック競技大会は7月24日から8月9日までの16日間。パラリンピック競技大会は8月25日から9月6日。この時期の天候は晴れる日が多く、且つ温暖であるため、アスリートが最高の状態でパフォーマンスを発揮できる理想的な気候である。

◆　7月末から8月にかけての東京の気候を【温暖で理想的】と感じる人がいるのだろうかと驚きますし，別の箇所にある文言（部分抄）の【東京大会のあらゆる場面において、その中心となるのは選手である。大会計画のあらゆる面で選手のニーズを最優先で考慮して実現させている。】といういわゆる「アスリートファーストの理念」とすら自己矛盾しているように思います。

いま一つの《大いなる虚偽》は，招致演説やそれに関する応答の中での安倍首相の「Some may have concerns about Fukushima. Let me assure you, the situation is under control.」という趣旨の発言です。当時の福島の原発事故の処理状況について「きちんと制御されている」という実感・印象を持っている人は皆無に近かった状況だと思っています。その状況の中で，国際舞台で《大いなる虚偽》演説ができるのが，政治家であり，日本の首相なのだろうと思います。

◆　こうした二つの《大いなる虚偽》が要素として組み込まれた状況の，莫大の労力と経費と価値が必要なイベントが円滑な推移を辿るとは，誰しも思えないことだろうと思います。公式の「立候補ファイル」と公式の場における日本の首相の演説・発言が《大いなる虚偽》を含んでいること，しかも，その文脈に大きな格別性を有する重大な案件に《大いなる虚偽》が含まれているということは，取りも直さず，この東京オリンピック・パラリンピックに関わる関係者・機関・組織などの考え方・捉え方の中において《大いなる虚偽》が成り立つ状況があることが，大きな問題だと思います。つまり，内部的に，「目的と手法の倒錯（価値軸の混乱）」が起きていて，多くの国民感情・感覚や，多くの税金を費やすことに基づく倫理観などの次元から乖離した《内輪の論理》が優先される組織集団だっと思われます。公正で明確な整った価値軸に基づく判断・手順が基本原理となっているのではなく，《見栄えの良い表面を飾ることが第一義になるご都合主義》に基づく《安易な価値軸》が隠れた基本原理として働いていたのではなかろうかと思われます。

◆　国際的な立場や莫大な経費を伴う東京オリンピック・パラリンピックの組織の在り方の根幹のところに《大いなる虚偽を成り立たせる内輪の論理》が巣くっていると捉えると，【関連事案年表】のところに取り上げた「余りにもお粗末な判断，公開性・透明性の無さ」などの理由が垣間見えるような印象になります。

《IOC》

◆　もともと，オリンピックを開催する国際オリンピック委員会（IOC）は，オリンピック憲章で「オリンピズムの目的は、 人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。」などの理念的なものが掲げてありますが，私見的な印象では，オリンピック憲章とはかなり次元のことなる放映権料による金権体質があり，アスリートファーストの理念よりも過度の商業主義を優先するのが常態化していて，オリンピックの意義自体が《内部崩壊》していると思っています。とても「人類の調和のとれた発展」とは言えないように感じています。開催時期の設定，競技時間帯の設定などが米国の放映時間を主に決められていることは周知のことであり，時差のズレが大きい日本での競技時間の設定など，歪んでいると思っています。また，開催誘致のロビー活動なども含めての金権体質自体が，オリンピックの崩壊を招く可能性があるように思っています。

◆　度が過ぎた金権体質に基づく判断軸・価値軸の混乱と，日本の関連組織の底流にある《内輪の論理とご都合主義》とによって担われた今回の東京オリンピック・パラリンピックに幾つもの「疑義・疑念・混乱」が浮かび上がったその背景にあるのは，現代日本の社会・政治（行政）・文化などの，少し前くらいまでは一定の高い水準にあったと思われていたそうしたものも《内部崩壊》が起きていて，その《脆弱性》が顕在化してきただけのように思われます。東京オリンピック・パラリンピックの前後に話題になった幾つかの事例を，個人的な捉えにすぎませんが挙げてみます。率直に，「どうして，こんな状態の国になってしまっているのだろうか・・？」と思ってしまいます。

▼　世界経済フォーラム（WEF）の2021年版「ジェンダー・ギャップ指数」（対象は世界153カ国）で，日

本は120位でG7の中で圧倒的に最下位。同じアジアの韓国は102位，中国は107位との報道。

▼　憲法53条では、衆参両院いずれかの総議員の4分の1以上の求めがあれば、内閣は臨時国会を召集

しなければならないと定めています。本年7月16日に野党4党から要求がありましたが，召集されていませ

ん。2017年6月にも野党がこの規定で召集要求をしたが、森友・加計学園問題で追及を受けていた当時

の安倍内閣は約3カ月間応じず、9月に開いた臨時国会の冒頭で衆院を解散したことがあるとの報道。

▼　「強い官邸」をめざす官邸の意に沿わない者を露骨に排除するやり方であり，人事権（任命権）を盾にし

た強権的手法が結果的に「官僚による忖度」を生み出し，政治と官僚行政のバランスで成り立っていた日本

的システムが崩壊しつつあるとの報道。

▼　社会的な貧困を捉える概念に「相対的貧困」というのがあり，「その国の文化水準・生活水準と比較して困

窮した状態（標準的な生活水準の所得の半分以下）」を指すとされていて，日本ではH28年段階の所

得で1人世帯：122万円　2人世帯：173万円　3人世帯212万円　4人世帯：244万円くらいが

「相対的貧困線」とされています。H30時点で貧困率は15.7％（国民の約6人に1人）であり，子ども

では約7人に1人だと言われているとの報道。（公立の小中学校で捉えると学級の2割弱くらいが該当する

と思われます。）「先進国」と呼ばれる34ヶ国の中で10番目に高い状況だと言われています。

▼　東京オリンピックの清掃員のバイトに従事した人が目にした選手・関係者の多くの食べ残し・飲み残しの残飯

廃棄の量の多さと処理のたいへんさの中での失望感を伝えるネット記事。

▼　大会組織委員会が会場の医務室で余ったサージカルマスク・ガウンなどの消耗品など500万円分を廃棄。

パラリンピックで再利用しようとして発覚との報道。

▼　オリンピック開会式で余った弁当４千食分を廃棄。原因は，弁当発注量と当日の必要数とのズレが理由だ

ったとの報道。

《東京大会の意義》

◆　多くの人は政府のコロナ対策に肯定的な評価をすることも無い状況（世論調査で「政府のコロナ対策を評価しない」が6割を超え，無観客の開催決定に対しても半数が「中止・延期」を望む状況）の中で，緊急事態宣言下の第5波感染者の最大級の増加ペース，搬送先の無い救急車，災害並みの医療現場，自宅療養中の死者数の増加など，無策が招いたとしか言えない状況の報道が連日続く状態での開催となりましたが，最も象徴的だったのは，こうした状況下での東京オリンピック・パラリンピックの根幹的な意義についての曖昧さだったように思っています。

◆　東京大会については，「コンパクト五輪と復興五輪」がテーマであり理念性がありましたが（既に内部崩壊していましたが），1年延期を決めた時の安倍首相のコメントは「人類が新型コロナ感染症に打ち勝った証として，完全な形で開催する」というものであり，コロナ禍での開催自体が目的化した印象になりました。菅首相も，ある意味一貫して「感染対策を徹底し国民の命と健康を守り，安心・安全な大会を実現すること」を大会の目的・理念のように表明していましたが，これも，開催自体が目的化したコメント以外何物でもありません。また，意義については，国会での党首討論でも壮行会のビデオメッセージでも「困難に打ち勝つ　～　東洋の魔女などの思い出話」を語っているようですが，国民の多くがコロナ禍による不安感の中での東京大会の開催の意義について，個人的な思い出話しか語らない首相が，現在の日本の文化水準・政治水準を示しているように感じてしまいます。

◆　東京オリンピック・パラリンピックの競技の映像としてテレビに映し出される姿には，選手個人のたゆまぬ努力や研鑽の成果をうかがうことができたり，スポーツの持つ魅力がふんだんにあったり，新しい種目の在り方や競技参加者の意識の変容など感銘的な場面も数多くありましたが，入賞者のコメントに，「開催してくださった方々への感謝」の言葉が多くあったのが，逆説的に《災害レベルと言われる非常時における大規模スポーツ競技大会開催の意味》を考えさせる機会になったようにも思っています。競技・大会レベルのスポーツを「する人，主催する人，観る人」それぞれの目的・意義，オリンピックに「プロ」が参加する目的・意義，莫大な税金を投入する目的・意義，スポンサーとなる目的・意義など，その関連から，あれこれと考えさせられています。

▼　私が社会的に《大いなる虚偽》だと思うことについて，そうだと捉えない人や意に介さない人もそれなりに多くい

るのも事実だろうと思われます。

▼　競技に打ち込み，葛藤を乗り越え，すばらしい成果を出したオリンピアンが，別の資質・能力において高い

水準にあるかどうかは別問題というのも事実なのだろうと思います。同様に，別の領域で高い実績・すばらしい

成果をだした人も同じことだろうと思います。

▼　ジェンダー視点が乏しく，男性中心に日本の組織や集団が成り立っていると思っていて，それが「当たり前・

普通」だと思っている人が，周囲の人に親切で優しい穏やかな「良き人」であり得る可能性も高いかもしれない

と思うのも，逆説的に同じことなのだろうと思います。

▼　それほど競技を熱心に見ている訳でもなく，開会式・閉会式も観ませんでしたが，オリンピックとパラリンピック

のテレビでの扱い方，ニュースでの扱い方の相違にもあれこれと考えさせられました。テレビ業界にとっては，パラ

リンピックの感動的なシーンや印象に残る《選手の努力》も，所詮「視聴率の取れ高」でしかない本質も垣間

見させてもらったという印象が残りました。